

申11号

新幹線で繰り返し発生する事故・事象に対して 安全と安定輸送を確保し失墜した信頼回復のための緊急申し入れ

4月3日 団体交渉を行う!

1. 新幹線の安全を脅かす事故・事象が繰り返し発生していることに対する会社の認識を明らかにし、重大性を受け止めること。また、失墜した信頼を取り戻すために、経営責任を明確にすること。

認識

「列車分離」という安全に関わる重大な事象を発生させ、お客さまへの輸送影響が大きく、社会に対してもインパクトを与えご迷惑をおかけした。会社としても極めて重要な事象であると考えている。早急に原因究明を行い、対策を講じお客様の信頼回復に努めていく。結果として同種の事象が繰り返し発生している認識はあるが、原因究明し関連性があるのかを含めて調査を行っているところである。

組合

- ✓ 運輸安全委員会から「重大インシデント」に認定されたが、前回の列車分離では指定されなかった。その違いは何か。
- ✓ 前回の列車分離で「重大インシデント」に指定されていれば詳細に調査が行われることで2度目の事故は防げたのではないか。
- ✓ 運行優先「稼ぐ」が第一で、安全が蔑ろになっている。経営としてガバナンス不全に陥っていないか。

会社

- 運輸安全委員会の判断となるが、「列車分離」を同じ車種で2度発生したという事象を捉えて重大インシデントに指定されたと考えている。
- 会社としても尽くせる限りの調査を行い、原因を究明してきたところである。そこは重大インシデントに指定されたかどうかは関係ない。
- 安全はトッププライオリティであり変わるものではない。しかし、民間企業として「稼ぐ」ことは当然である。

そして

同種事象を繰り返し発生させ信用を失墜させた責任は重大であり、経営のトップである社長が前面に立って説明責任を果たすことが、経営責任としてのあり方であることを強く主張!

2. 繰り返し発生している走行中の列車分離について、これまで行ってきた原因究明と講じてきた対策についての認識を示すこと。また、3月6日に発生した列車分離の原因究明を早急に行い、同種事象が二度と発生しないように対策を講じること。

認識

前回の「列車分離」は、調査の中で金属片の介在が原因だと推定される。今回は別の原因で起こったものと考えている。現在、運輸安全委員会も立ち合い、調査を行っている最中である。

組合

- ✓ 前回の事象は「金属片」の介在が原因となっているが、特定したのか。
- ✓ 昨年12月に分割不具合が発生し、前回列車分離した車両の分併制御盤を今回列車分離が発生した車両に載せ変えたことについて、事実なのか?
- ✓ 原因特定するまで併結運転中止としたが、判明しないまま暫定対策で併結運転を再開したことは信用をさらに失墜させた。ダイヤ改正に間に合わせるための運行優先ではないか。

会社

- 調査の中で原因として、金属片が導通したと特定し、速やかに対策を行った。
- 運輸安全委員会も含めて調査中であり、原因究明を進めている。
- 暫定対策で「列車分離は起こらない」ことを記者会見で丁寧に説明を行った。会社として最大限の形をとったと考えている。運行優先ではない。皆さんの努力の賜物であり結果論としてダイヤ改正に間に合った。

交渉の中で

同種事象を繰り返している! 前回の列車分離の原因が本当に「金属片」であったのか!? 原因究明のあり方を指摘!!

3. 一連のパンタグラフスリ板破損の原因を具体的に明らかにすること。また、新幹線の安全・安定輸送確保のための早急に対策を講じること。

認識

2018年頃から発生していたスリ板破損を受け、スリ板の厚さの取り替え限度を厚くした。2024年11月の事象を受け車両、電力で一斉点検を実施し、原因究明を行っている。

組合

- ✓ 2024年11月の事象は大きな事象であった。今年2月のスリ板破損の原因は何か。
- ✓ 事象発生後、何も対策が取られていない。早急に対策を講じること。

会社

- 会社としても大きな事象であったと認識している。2月の更なる事象を受け、3月に走行試験を実施し、現在データの分析を行っている。引き続き原因究明に努めていく。

**相次ぐ同種の事故・事象、列車分離は2度目であり、労使が重く受け止めなければならない!
安全・施策は労使でつくり上げていくものであり、安全な新幹線輸送を提供していくためにも
現場の声をきちんと受け止めることを強く主張し全項目終了!**

立て続けに発生する事故・事象に対しての
危機意識の希薄さ、背後要因に迫らない経営姿勢を厳しく指摘